

# 想像地図架空言語「Hiktan 語」(詰旦語)

## Hiktan 語とは?

想像地図の舞台「城栄国」の南東部にある島国「Hiktan 国」で話される架空言語。

## 架空言語について

架空言語は、「人工言語」という呼び方も存在するが、ここでは「架空言語」と呼ぶことにする。筆者は「想像地図」という架空の世界の地図を描いているが、あくまで「旅人の立場」からの描写であって、「造物主や為政者の立場」からの描写ではない。つまり、未知の場所を旅しながら、この先に広がっているのはどのような土地だろうか、と想像しながら描いているのである。

Hiktan 語も同じで、あくまでも「言語学習者の立場」からの描写であって、「神の立場」からの造語ではない。つまり、未知の言語の辞書を見ながら、この意味の単語は何だろうか、と想像しながら描写しているのである。

「架空言語」「人工言語」と言ったとき、表しているもの(概念)は同じでも、作る人の立場が違うのである。この文章では「架空言語」で統一することにする。

架空言語や架空地図には「現実改変型」(アポステリオリ型)と「完全架空型」(アプリオリ型)の 2 種類が存在する。現実改変型は、実在の言語(または地図)を改変することで作ったものである。一方、完全架空型は、実在物をベースとせず完全にゼロから作り上げたものである。

Hiktan 語は、完全架空型の架空言語である。

城栄国で話される言語「城栄語」は日本語とほぼ同じだが、ほぼ同じというのは、似た地形・気候・歴史・文化の背景になり立つが故のことである。城栄語で漢字が使われるのは隣国の「森国」の影響である。それゆえ日本語とほぼ同じ言語が成り立ったのだが、やはり異世界の言語だから完全に同じというわけではない。語彙に若干の差違が見られる。

Hiktan 語には、城栄語や森国語からの借用語彙が存在する。地球でも異世界でも、接触可能な異文化があるなら、その影響を受けている方が自然だろう。確かに城栄語は日本語に似すぎているし、森国語は中国語に似すぎている。そのため、見かけ上は Hiktan 語が日本語と中国語を混ぜた現実改変型言語であるように見えるが、それは単に城栄語と森国語がそれぞれ日本語と中国語に似ているからである。またその理由も、城栄国と森国の文化・風土・気候などがそれぞれ日本と中国のそれに似ていたからである。よって、城栄語と森国語も架空言語である。

## 「Hiktan 語」という名称について

日本語および城栄語では「ヒッタン語」と呼ぶ。

中国語および森国語では「詰旦話」と呼ぶ。

その他、ラテン文字およびそれに準じる文字を持つ言語では「Hiktan」の後にその言語で「言語」を表す単語を繋げる。

日本および城栄での略称は「詰」。

## 音韻

### 子音

#### 第一種子音 (12 種)

第一種子音は無声子音と鼻音である。前者を甲種、後者を乙種と呼ぶ。概ね日本語の「清音」に当たる音だが、例外もあるので注意して欲しい。

第一種子音の一部のみが末子音になることができ、末子音の時は内破音などの弱い音になるが、消えることはない。末子音の後に曖昧母音は補わない。また、無声音の子音が母音に挟まれたからといって有声音になるようなことはない。

| 文字 | 音価(IPA)     | 転写        | 発音上の注意事項   |
|----|-------------|-----------|--|
| ㄥ  | [k]         | k         | 日本語のカ行の子音と同じ発音。<br>末子音の時は内破音 [k̚] となり、日本語の「1 回(いっかい)」の「っ」と同じ音になる。  |
| ㄙ  | [s]         | s         | 日本語のサ行(「シ」以外)の子音と同じ発音。<br>末子音の時は息が漏れる程度の弱い音となり、語中では日本語の「1 歳(いっさい)」の「っ」と同じ音に、語末では弱く発音したときの「す」のような音になる。<br>英語と異なり [z] になることはない。「si」は「シ」ではなく「スイ」。 |
| ㄷ  | [ʃ]または[ç]   | x         | 日本語の「シ」の子音と同じ発音。「xi」で「シ」の発音。<br>末子音の時は息が漏れる程度の弱い音となり、語中では日本語の「1 章(いっしょう)」の「っ」と同じ音に、語末では弱く発音したときの「し」のような音になる。                                   |
| ㄸ  | [t]         | t         | 日本語の「タ」「テ」「ト」の子音と同じ発音。<br>末子音の時は内破音 [t̚] となる(日本語の「1 等(いっとう)」の「っ」と同じ音)。   |
| ㄸ  | [tʃ]または[tç] | q<br>(tx) | 日本語の「チ」の子音と同じ。末子音の時は息が漏れる程度の弱い音。<br>「ch」ではなく「q」と転写することに注意。「tx」と転写する場合もある。  |
| ㄸ  | [ts]        | c<br>(ts) | 日本語の「ツ」の子音と同じ。末子音の時は息が漏れる程度の弱い音。<br>「ts」と転写する場合もある。  |
| ㄸ  | [f]または[f]   | f         | 英語・中国語の「f」と同じ音で発音しても、日本語の「フ」の子音と同じ音で発音してもどちらでも良い。末子音の時は息が漏れる程度の弱い音。  |
| ㄸ  | [p]         | p         | 日本語のパ行の子音と同じ発音。<br>末子音の時は内破音 [p̚] となる(日本語の「1 発(いっぱつ)」の「っ」と同じ音)。  |
| ㄸ  | [h]または[x]   | h         | 日本語の「ハ」「ホ」の子音と同じ発音でも中国語の h 音でもどちらでもよい。<br>末子音になるのは、後続音節の語頭が h の場合のみ。   |
| ㄸ  | [ŋ]         | ^<br>(ng) | 語頭に現れた場合は日本語のガ行鼻濁音と同じ発音。<br>末子音の時は、日本語の「3 回(さんかい)」の「ん」と同じ音。  |
| ㄸ  | [n]         | n         | 日本語のナ行の子音と同じ発音。<br>末子音の時は、日本語の「3 等(さんとう)」の「ん」と同じ音。   |
| ㄸ  | [m]         | m         | 日本語のマ行の子音と同じ発音。<br>末子音の時は、日本語の「3 発(さんぱつ)」の「ん」と同じ音。   |

どの子音についても、頭子音として現れるときは日本語の通常の発音に近く、末子音として現れるときは日本語の「っ」や「ん」に近い音になる。日本語では「っ」と「ん」はそれぞれ 1 種類ずつだが、Hiktan 語では末子音のときも区別するので注意が必要である。子音の体系だけを見たときは、Hiktan 語はタイ語に似ている。

## 第二種子音 (7種)

第二種子音は全て有声音である。末子音にならない。

| 文字 | 音価(IPA)    | 転写 | 発音上の注意事項  |
|----|------------|----|---|
| ㄱ  | [g]        | g  | 日本語のガ行の子音と同じ。^(ng) [ŋ] とは異なる音なので、鼻濁音にしない。                     |
| ㅈ  | [z]        | z  | 日本語のザ行(「ジ」以外)の子音と同じ。  |
| ㅊ  | [ʃ]または[dʒ] | j  | 日本語の「ジ」の子音と同じ。  |
| ㅋ  | [d]        | d  | 日本語の「ダ」「デ」「ド」の子音と同じ。  |
| ㄴ  | [l]        | l  | 英語・中国語の「l」と同じ音。<br>なお、[l] / [r] の対立は存在しないため、日本語のラ行の子音と同じでも良い。 |
| ㅇ  | [β]または[v]  | v  | fの有声音。  |
| ㅂ  | [b]        | b  | 日本語のバ行の子音と同じ。   |
| ㄹ  | [ɦ]または[ɣ]  | r  | hの有声音。ささやき声のような音。<br>喉の奥から声を出して [ɣ] で発音してもよい。                 |

## 第三種子音 (2種)

第三種子音は拗音とも呼ばれ、半母音である。第三種子音のみが二重子音をなすことができ、必ず「第一種子音+第三種子音+母音」・「第二種子音+第三種子音+母音」・「第三種子音+母音」の形になる。なお、「半母音+母音」と「二重母音」は常に区別するので注意。例えば、ya と ia は違う音である。前者は1拍だが後者は2拍である。さらに、2拍の yaa も ia とは異なる音である。(日本語でも「や」「いあ」「やー」は異なる音である)

| 文字 | 音価(IPA) | 転写 | 発音上の注意事項   |
|----|---------|----|--|
| ㅇ  | [j]     | y  | 日本語のヤ行の子音と同じ。<br>二重子音の時は、前の子音を口蓋化させて発音し、拍の長さを変えない。 |
| ㅁ  | [w]     | w  | 日本語のワ行子音と同じ。<br>二重子音の時は、前の子音を唇音化させて発音し、拍の長さを変えない。  |

## 分類できない子音

音素ではない子音が存在する。

| 文字 | 音価(IPA) | 転写 | 発音上の注意事項   |
|----|---------|----|--|
|    | [ʔ]     | -  | 子音で終わる音節の直後に母音で始まる音節が現れたときに自動的に挿入される。<br>音声としては声門閉鎖音。「-」(ハイフン)で転写する。 |

## 母音

### 基本母音(短母音)

基本母音は5種であり、日本語とほぼ同じ発音である。

| 文字 | 音価(IPA)    | 転写 | 発音上の注意事項                  |
|----|------------|----|---------------------------|
| □  | [a]        | a  | 日本語の「あ」よりも口を大きく開く。        |
| ◇  | [e] or [ɛ] | e  | 日本語の「え」と同じ。               |
| △  | [i]        | i  | 日本語の「い」と同じ。               |
| ○  | [o]        | o  | 日本語の「お」と同じ。[ɤ] への変化傾向がある。 |
| ▽  | [u]        | u  | 日本語(関東方言)の「う」と同じ。口を横に開く。  |

### 長母音

5種の基本母音に対応する長母音が存在する(日本語と同じく、母音の長さにより単語を区別する)。

| 文字 | 音価(IPA) | 転写 | 発音上の注意事項                           |
|----|---------|----|------------------------------------|
| □□ | [a:]    | aa | 日本語の「あー」よりも口を大きく開く。                |
| ◇◇ | [e:]    | ee | 日本語の「えー」と同じ。                       |
| △△ | [i:]    | ii | 日本語の「いー」と同じ。                       |
| ▽▽ | [ɔ:]    | oo | 日本語の「おー」と同じ。短母音の時よりも口の開きを僅かに大きくする。 |
| ○○ | [u:]    | uu | 日本語の「うー」と同じ。                       |

### 二重母音

異なる2つの基本母音の組み合わせが全て存在するため、二重母音は20種類ある。

| 文字 | 音価(IPA)      | 転写 | 発音上の注意事項                             |
|----|--------------|----|--------------------------------------|
| □◇ | [ae] or [aɛ] | ae | 「えー」にしない。                            |
| □△ | [ai] or [aɪ] | ai | 「えい」や「えー」にしない。英語の「I」に近い。             |
| □○ | [ao]         | ao |                                      |
| □▽ | [au]         | au |                                      |
| ◇□ | [ea]         | ea |                                      |
| ◇△ | [ei] or [eɪ] | ei | 決して「えー」にしない。「経済」を「けーざい」と発音している人は要注意。 |
| ◇○ | [eo]         | eo | 決して [ø] ではない。                        |
| ◇▽ | [ew]         | eu | 決して「ゆー」にしない。                         |
| △□ | [ia]         | ia | 決して「やー」にしない。「ya」とは異なる音なので、混同しない。     |
| △◇ | [ie] or [iɛ] | ie | 日本語の「家(いえ)」と同じ。「ye」とは異なる音なので、混同しない。  |
| △○ | [io]         | io | 決して「よー」にしない。「yo」とは異なる音なので、混同しない。     |
| △▽ | [iu]         | iu | 決して「ゆー」にしない。「yu」とは異なる音なので、混同しない。     |
| ○□ | [oa]         | oa |                                      |
| ○◇ | [oe]         | oe | 決して [ø] ではない。                        |
| ○△ | [oi] or [oɪ] | oi |                                      |
| ○▽ | [ow]         | ou | 決して「おー」にしない。                         |
| ▽□ | [ua]         | ua | 決して「わー」にしない。「wa」とは異なる音なので、混同しない。     |
| ▽◇ | [ue]         | ue | 日本語の「上(うえ)」と同じ。「we」とは異なる音なので、混同しない。  |
| ▽△ | [ui]         | ui | 日本語の「初(うい)」と同じ。「wi」とは異なる音なので、混同しない。  |
| ▽○ | [uo]         | uo | 日本語の「魚(うお)」と同じ。「wo」とは異なる音なので、混同しない。  |

## 音節

最も多く出現するのは「子音+母音+子音」の形をした音節である。

母音の前に来る子音を「頭子音」、後ろに来る子音を「末子音」という。頭子音がない音節、末子音がない音節、両方ともない音節(母音のみの音節)もある。

ただし、全ての子音が末子音となることができるわけではなく、前述した第一種子音のみが末子音になることができる。末子音の後に曖昧母音を補ってはいけない。二重母音は多数存在するが、二重子音は少数しか存在しない(「第一種子音+第三種子音」または「第二種子音+第三種子音」の組み合わせのみ)。

※「Hiktan」や「getdan」などように、末子音の後に頭子音が来ているものは、見かけ上は子音が連続しているが、別々の子音であり、二重子音ではない。「Hik / tan」「get / dan」のように2つの音節が並んでいるだけである。

## 拍

日本語と同じく、「拍」が存在する。拍と音節は一致しない。1拍の音節 … 「子音+短母音」、「短母音」

2拍の音節 … 「子音+短母音+子音」、「短母音+子音」、「子音+長母音」、「長母音」、「子音+二重母音」、「二重母音」

3拍の音節 … 「子音+長母音+子音」、「長母音+子音」、「子音+二重母音+子音」、「二重母音+子音」

※頭子音と母音の間に第三種子音が入っても、拍の長さは変化しない。

## 連音化

複合語および文章中で意味の切れ目とならない単語連続があるときは連音化が起こる場合がある。

### 1.末子音+母音

アンシェヌマンは存在しない。子音で終わる単語の直後に母音や半母音で始まる音節が来ても一体化させない。これは日本語の発音と同じである(日本語の例: 減圧、原因、安全運転、千円、連音)。

複合語における単語内連音は少数のみ存在するが、**連音化しないものが多い**。

(例) hi<sup>^</sup>-ak 「北東」、kiq-ya 「三股」

それぞれ音節間に声門閉鎖音を入れて「ヒンアッ」「キチャ」のように発音する。「ヒガク」「キチャ」にしないこと。また、綴りには「分音符号」を書いて別の音節であることを明示する。分音符号は、ラテン文字転写では「-」(ハイフン)を使い、Hiktan 文字では「|」(縦棒)を使う。

### 2.母音+母音

Hiktan 語では、「単なる母音の連続」と「二重母音」を区別しないが、**短母音で終わる音節の直後に短母音で始まる音節が来た場合**はその2つの母音は一体化して二重母音となる。「二重母音+短母音」の場合および「短母音+二重母音」の場合は、一体化させて三重母音のように発音しても、一体化させず別々に発音してもどちらでもよい。「二重母音+二重母音」の場合は一体化させない。

### 3.末子音+頭子音

破擦音の末子音を持つ音節の後に、破擦音の頭子音を持つ音節が続く場合、前の音節の破擦音は内破音に置き換わる。具体的には、-q, -c で終わる音節の後に t-, q-, c- で始まる音節が続く場合、前の音節はいずれも -t に置き換わる。

(例) kiq<sup>q</sup>ia 「三千」

末子音の破擦音 q を t に置換し、kitqia [kitʃia] と発音する。カタカナで書くと「キッチア」。

## 特殊な音韻対立

### 1.長短の区別

音の長さで単語を弁別する場合があるため注意。例えば、**matii**「熱い」・**maatii**「勇敢な」は区別される別の単語である。母音の長短は強い弁別機能を持っており、似た文脈で使われる単語でも最小対立となる単語の組み合わせが存在する。同様の最小対立は日本語にも見られ、「おばさん」と「おばあさん」がその代表例である。

なお、「oo」（「o」の長母音）は、「o」よりもやや口の開きを大きくして発音するため [ɔ:] となり、「uu」（「u」の長母音）は口を尖らせて発音するため [u:] となるが、それらの違いは意味の分別には影響しないので [o:] と [u:] でも問題ない。

### 2.内破音の種類による対立

前述の通り、音節末子音の「-k」「-t」「-p」は内破音として発音される。英語の音節末子音のように破裂を伴わず、**調音器官を開放せずに保持する音**である。このような音は、日本語の「1 回(ikkai)」「1 等(ittō)」「1 発(ippastsu)」などに見られるが、日本語では全て「っ」と認識され、区別しない。しかし、アルファベットで書いたら分かるように、「1 回(ikkai)」「1 等(ittō)」「1 発(ippastsu)」にある「っ」の発音は全て異なる。**Hiktan** 語ではこれを区別している。例えば、**zak** (袋)・**zat** (音)・**zap** (草) はいずれも異なる意味を表しているが、多くの日本人には3つ全てが「ザッ」と聞こえる。同様の音韻対立は、広東語を始めとする中国語の方言・朝鮮語・タイ語などに見られる。(参考) このような音韻対立は、北京語・上海語では消滅している。北京語では内破音自体が摩耗して消えている。上海語では内破音の痕跡は残っているが、区別がなくなり1種類に統合されてしまった。

### 3.音節末鼻音の対立

内破音の対立と同様に、「-<sup>h</sup>(ng)」「-n」「-m」も区別される。この音は日本語にも存在するが、末子音の場合は全て「ん」と認識され区別されることはない。しかし、**Hiktan** 語では区別しており、**ki<sup>h</sup>** (錐)・**kin** (氷)・**kim** (胸) は異なる意味の単語である。これと同様の音韻対立も、広東語を始めとする中国語の方言や朝鮮語などに見られる。(注) 日本語に「ん」や「っ」の音を持った単語が沢山あることから分かるように、日本語は開音節言語ではなく閉音節言語と見られることもできる。もし日本語が完全な開音節言語であったなら、「しりとりで『ん』で終わる単語を言ったら負け」というルールはなくなってしまふ。

### 4.二重母音と半母音

「上昇二重母音」(例えば **ia**)と「第三種子音+母音」(例えば **ya**)は異なる音である。二重母音はあくまでも母音だが、第三種子音+母音はそうではない。どちらもその前に子音がつくことがあり、「第三種子音+母音」が見かけ上は1つの母音のように見えるかもしれないが、あくまでも前の子音と結合した二重子音である。また、前者は2拍であるが後者は1拍である。

## アクセント

高低アクセントである。単語の品詞と音節構造によって決まる固定アクセントである。

| 品詞             |              | アクセント・声調   |
|----------------|--------------|--|
| 動詞・形容詞         | 1音節          | 下降   |
|                | 2音節以上        | 最終音節以外は高平板、最終音節は下降<br>(第1音節が1拍の時のみ、第1音節は低音)<br>最終音節が <b>-k, -t, -p</b> で終わる場合、その音節は低平板 |
| 名詞             | 1音節で1拍       | 高音(音を伸ばさない)  |
|                | 1音節の開音節で2拍以上 | 下降   |
|                | 1音節で閉音節      | 高平板  |
|                | 2音節以上        | 第1音節は高平板、第2音節以降は低平板<br>(第1音節が1拍の時のみ、第1音節は高音)   |
| その他(助動詞・格標識など) |              | 1拍なら低音、2拍以上なら低平板   |
| 疑問間投詞「han?」    |              | 上昇   |

※1音節動詞の過去形など、接尾辞がついて2音節以上となったものは2音節の動詞として扱う。

## 表記

文字での表記は前述した字母を用いる。単語間には1文字分(全角)の幅の空白を入れる。

ラテン文字のような「大文字と小文字」の区別は存在しない。

単語中で音節の区切れ目を明示する必要がある場合は分音符号（|）を用いる。

## ラテン文字への転写について

この文章ではラテン文字に転写した表記を使っている。Hiktan 語をラテン文字に転写する方法は4系統存在する。ここでは、最も汎用性の高い「第2方式」で転写した。他に3種類の転写方式があり、以下の子音の表記法が異なる。

| 発音   | [ʃ] | [ç] | [ts] | [ŋ] | [h] |
|------|-----|-----|------|-----|-----|
| 第1方式 | sh  | ch  | ts   | ng  | gh  |
| 第2方式 | x   | tx  | ts   | ng  | gh  |
| 第3方式 | x   | q   | c    | ŋ   | ġ   |
| 第4方式 | x   | q   | c    | ^   | r   |

第1方式は、英語の綴りや日本語のローマ字の綴りに似ていて分かりやすいという利点があるが、ch音がtとshの合成であることが分かりにくい。

第3方式は、二重音字が全く存在しないため、PCソフトによるHiktan字母への変換処理が容易であるが、27, 28番目のアルファベット「ŋ」「ġ」が必要となる。それを防ぐために「^」を使う第4方式が作られた。

分音符号（|）はラテン文字転写中ではハイフン(-)で書かれる。単語間のスペースは、ラテン文字転写中では半角スペースとなる。

また、ラテン文字で転写する場合、文頭の文字や固有名詞の語頭の文字は大文字で書く。



## 字母の名称について

### ◆第1種子音

|    |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 文字 | 丿       | フ       | マ       | ㄣ       | ㄨ       | ㄣ       | ㄣ       | ㄣ       | ㄣ       |
| 転写 | k       | s       | x       | t       | q       | c       | f       | p       | h       |
| 名称 | kuk(クツ) | suu(スー) | xii(シー) | tet(テツ) | qii(チー) | cuu(ツー) | fuu(フー) | pip(ピツ) | haa(ハー) |

|    |        |        |        |
|----|--------|--------|--------|
| 文字 | ㄣ      | ㄣ      | ㄣ      |
| 転写 | ^      | n      | m      |
| 名称 | u^(ウン) | en(エン) | im(イム) |

### ◆第2種子音

|    |         |         |         |         |         |         |         |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 文字 | ㄣ       | ㄣ       | ㄣ       | ㄣ       | ㄣ       | ㄣ       |         |
| 転写 | g       | z       | j       | d       | v       | b       | r       |
| 名称 | guu(グー) | zuu(ズー) | jii(ジー) | dee(デー) | vuu(ヴー) | bii(ビー) | raa(ガー) |

### ◆第3種子音

|    |         |          |
|----|---------|----------|
| 文字 | ㄣ       | ㄣ        |
| 転写 | y       | w        |
| 名称 | yui(ユイ) | wiu(ウィウ) |

### ◆母音

|    |        |        |        |        |        |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 文字 | □      | ◇      | △      | ○      | ▽      |
| 転写 | a      | e      | i      | o      | u      |
| 名称 | aa(アー) | ee(エー) | ii(イー) | oo(オー) | uu(ウー) |

## PCでの入力

2012年10月28日に製作された Hiktan 文字フォント「HIKTAN-G」では、「第4方式での入力」に対応している。ただし、分音符号は「|」（縦棒）と対応している。それ以外の記号は「ピリオド」と「ハイフン」と「括弧」が対応済み。ただし、ラテン大文字には対応していないため、全て小文字で入力する必要がある。

## 文法

### 基本語順

語順は、「主語+動詞(+目的語)」が最多である。なお、後述する格標識があるため語順を多少変えても意味は通じる。

(例文)

Yam tas. 「私は走る」 <語注> tas 「走る」

Yam ias ois ie. 「私は魚を食べる」 <語注> ois 「魚」 (ie は格標識。格標識については後で述べる)

英語の be 動詞や中国語の「是」に相当する動詞は「yai」。

(例) Yam yai nak. 「私は男である」

「yai」は名詞文にのみ使い、形容詞文には使わない(この点で、英語の be 動詞より中国語の「是」に似ている)。

形容詞文では動詞部分を形容詞に置き換えれば良い。

(例) Hit sonii. 「彼/彼女は禿げている」 <語注> sonii 「禿げている」

※yai 以外の動詞の語尾は全て-s, 形容詞の語尾は全て-ii である。ただし、語尾が-s だからといってその単語が動詞とは限らない。例えば jus(場末)は名詞だが語尾は-s である。

### 人称代名詞

1 人称 … yam

2 人称 … tui

3 人称 … hit

なお、3 人称を性別で区別しない。男性でも女性でも hit である。無生物に対しては人称代名詞を使わず、以下に示した指示代名詞を用いる。

### 指示代名詞

近称(これ) … tap

中称(それ) … qom

遠称(あれ) … ^at

日本語の指示代名詞と同様に 3 種類ある。

指示代名詞は 3 人称の人称代名詞であるという認識はさほどない。無生物に対して hit を使うことはあり得ない。

### 場所代名詞

近称(ここ) … tadei

中称(そこ) … qodei

遠称(あそこ) … ^adei

### 抽象代名詞

事実抽象代名詞(~ということ) … jit

### 疑問代名詞

誰 … hap

何 … nan

どれ … nie

どこ … niedei

いつ … noq

### 接続詞

xot … ならば・すると

nap … しかし・にもかかわらず

sip … そして

^a … と・かつ (否定すると部分否定となる)

mi … か・または (否定すると全否定となる)

### (例文)

Ias hax ^a ois. 「肉と魚を食べる」

Iasu^ hax ^a ois. 「肉を食べないか魚を食べないかのどちらか」

Iasu^ hax mi ois. 「肉も魚も食べない」

Ias hax mi ias ois. 「肉を食べるし、魚も食べる」

### 格標識

主格以外の名詞には、格を明示するための格標識を後につける。一方で、動詞は変化せず、英語のように人称によって動詞の形が変わることはない。文脈から判断が可能なら、**主語の省略は可能**である。

### (格標識の例)

ie … ～を (目的格)

io … ～へ、～まで (英語の「to」、中国語の「到」に相当)

ue … ～から (英語の「from」、中国語の「从」に相当)

ia … ～に (行為の対象)

uo … ～で (場所, 英語の「at, in」、中国語の「在」に相当)

ei … ～によって (行為者)

eu … ～の (所有格)

um … ～も (類推)

at … ～回 (回数)

o^ … ～個 (個数)

ap … ～間 (時間)

oe … ～よりも (比較)

eo … ～で、～を使って (手段, 英語の「by」)

### (例文)

Yam zakis pot ie. 「私は木を切る」 <語注> zakis 「切る」、pot 「木」

Hit tas mok uo. 「彼/彼女は山で走る」 <語注> mok 「山」

Tas mok ue sut io. 「山から谷まで走る」 <語注> sut 「谷」

Has jien ie. 「缶詰を開ける」 <語注> has 「開ける」、jien 「缶詰」

Yam um nas fik ie meit io. 「私も家を緑色にする」

Qodei eu fik uo hap um yasu^ / Hap um yasu^ qodei eu fik uo. 「その家には誰も居ない」

## 動詞の活用

### 共通した特徴

動詞は必ず語尾が「-s」で、形容詞は必ず語尾が「-ii」である。ただし、この逆は成り立たない。語尾が「-s」や「-ii」であるような名詞も存在する。(例) jus (場末)など。

(参考:日本語では、動詞の語尾が必ず「-u」である)

(注) 動詞の語尾「-s」の発音は常に [s] である。この発音が、英語の複数形・三人称単数形のように、前の音に応じて [z] に変わることはない。Hiktan 語の末子音は必ず無声音か鼻音のどちらかのみ!

### 時制による活用

規則動詞・形容詞の過去形は、語尾に接尾辞「-sit」をつける。例えば、tas の過去形は tassit となる。

未来形は、「-sap」をつける。

現在進行形は、語尾に「-ii」をつける。つまり形容詞化させる。

過去進行形は、語尾に「-iisit」をつける。つまり、「形容詞化+過去形化」である。

未来進行形は、語尾に「-iisap」をつける。

否定型は、「-u^」をつける。

接尾辞はいくつでもつけることができるが、接尾辞の順番は決まっている。一般に、

「受動態 → 進行形 → 過去・未来形 → 否定形」

の順番であることが多い。

現在完了に相当する言い方はない。過去形か現在進行形で表す。

(例文)

Yam tisii hit. 「私は彼/彼女を知っている」 <語注> tis 「知る」

tis は現在進行形 tisii を使うことが普通である。

(注) 日本語では「知っている」の否定の意味で「知らない」というが、Hiktan 語で tisii (知っている) の否定は tisiu^ であり、敢えて日本語に訳せば「知らない」である。

### 語根が同じ動詞と形容詞

tomis (増殖する) と tomii (おびただしい) のように、動詞と形容詞で語根が同じものがある。このような単語は、名詞が動詞・形容詞として使われるようになったものであることが多い。先の単語は、名詞「tomie」(大量増加)から派生したものである。このような現象は日本語にも見ることができる。

(日本語の例)

ググる(動詞) ← グーグル(名詞)

メモる(動詞) ← メモ(名詞)

事故る(動詞) ← 事故(名詞)

過疎る(動詞) ← 過疎(名詞)

(Hiktan 語の例)

tomis 「増殖する」(動詞) / tomii 「おびただしい」(形容詞) ← tomie 「大量増加」(名詞)

mios 「騙す」(動詞) ← mion 「ペテン、詐欺師」(名詞)

sonis 「禿げる」(動詞) / sonii 「禿げた」(形容詞) ← son 「禿げ」(名詞)

yoxis 「老化する」(動詞) ← yoxie 「老化」(名詞)

## 受動態

規則動詞の受動態形は、語尾に「-en」をつける。例えば、jis (見る)の受動態形は jisen となる。

(例文)

Sitjis jisen ei hit. 「テレビは彼/彼女に見られる」 <語注> sitjis 「テレビ」

(注意) 受動態形「-en」につく過去形接尾辞は「-it」、未来形接尾辞は「-ap」である。

(例文)

Hit miosenit mion ie. 「彼は詐欺師に騙された」

## その他の助動詞

### ◆可能の助動詞

「-eas」を規則動詞の語尾にそのままつける。例えば、pas (話す)は paseas (話せる、話すことができる)となる。

### ◆要求・欲求の助動詞

「-ia^」を規則動詞の語尾にそのままつける。例えば、jis (見る)は jisia^ (見たい)となる。

※実現可能性が低い場合は「-uek」を用いる。

### ◆方向助動詞

「-es」・「-us」は、動詞としては「行く」・「来る」の意味だが、他の動詞の語尾につけて意味を付加することができる。間に「-ii-」を挟むと「～している状態で行く・来る」、「-ia-」を挟むと「～しに行く・来る」の意味であることが明示される。挟まない場合は文脈により意味が変わる

(例)

kaos (持つ) → kaosiies (持って行く)・kaosiius (持って来る)

jis (見る) → jisiaes (見に行く)・jisiaus (見に来る)

tas (走る)などは、「-ii-」・「-ia-」のどちらも挟まないで使うと「走って行く・来る」なのか「走りに行く・来る」なのか区別がつかない。文脈で明らかに分かる場合を除いて省略しない。

### ◆意志助動詞

「-saas」を規則動詞の語尾にそのままつける。これは、未来形の「-sap」から派生したものだが、「～しようとする」という意志を含んだ未来の意味を表す。

「-sas」も同様に使われ、こちらは「～しようと思う」という、「-sas」より少し控えめな意味になる。なお、この後に「-sit」をつけて「-saassit」「-sassit」にすると「～しようとした」「～しようと思った」の意味になる。

### ◆開始・終了助動詞

「heis」「tuas」は、動詞としては「始める/始める」「終わる/終わる」の意味だが、他の動詞の語尾につけて意味を付加することができる。

## 不規則動詞

主な不規則動詞を表に示す。ただし、全てを網羅しているわけではない。

表 1 Hiktan 語の代表的な不規則動詞

| 動詞    | 転写  | 意味   | 過去     | 未来     | 可能     | 欲求      |
|-------|-----|------|--------|--------|--------|---------|
| □ /   | as  | する   | ait    | axip   | daas   | axang   |
| ◇ /   | es  | 行く   | et     | eip    | eaas   | esiang  |
| △ /   | is  | なる   | ixxat  | issap  | tiaas  | ixang   |
| ▽ /   | us  | 来る   | ueit   | ussip  | useas  | uxiang  |
| イ □ / | tas | 走る   | tassit | tassap | tases  | taxiang |
| △ □ △ | yai | ～である | yait   | yaip   | yaieas | yang    |
| △ □ / | yas | 居る   | yat    | yap    | yaseas | yasiang |

Hiktan 語の不規則動詞は英語ほど多くなく、give – gave のように母音が変化するといった変化はない。もちろん、go – went のように原型を失うような変化もない。

## 形容詞の副詞的利用

Hiktan 語に副詞は存在しないが、程度の助詞 qu を後に添えることで形容詞は副詞的に利用できる。

(例文)

Hit tas xoojii qu. 「彼は速く走る」 <語注> xoojii 「速い」

Ma^ matii pyeaii qu. 「中身が非常に熱い」 <語注> ma^ 「中身」、matii 「熱い」、pyeaii 「激しい」

時制が過去でも動詞のみを過去形にし、副詞的利用の形容詞は過去形にしない。

(例文)

Hit tassiqoojii qu. 「彼は速く走った」

## 疑問文

平叙文の後に疑問間投詞「han?」を加える。主語や目的語などを問うときは当該部分を疑問詞で置き換える。これは日本語の「～か?」に相当する言葉であり、au / ^ai (それぞれ yes / no に相当する言葉)で答えられる文章だけでなく、全ての疑問文に「han?」を加えることに注意。

「han?」は上昇声調だが、文章全体を尻上がりに発音するのではなく、「han?」の部分だけを上昇声調で読む。

(例文)

Ias tap ie han? 「これを食べますか?」

Qom yai nan han? 「それは何ですか?」

## 命令文

文末に命令間投詞「sei!」を加える。文頭に主語を置いて誰に対する命令なのかを明示することもできる。

なお、「sei!」なしで動詞で始まる文章は文脈によって様々な意味で受け取られるが、多くの場合は主語の「私」が省略されている場合である。

(例文)

Liasu^ yat eu buu uo sei! 「俺の後ろに立つな!」

## 間接文

節が目的語になる場合は、事実抽象代名詞 jit を使う。jit を含む文節を目的語とする場合、ie を省略できる。

(例文)

Yam tissit hit miosenii ei mion jit (ie). 「私は彼が詐欺師に騙されていることを知った」

Tui tisii hit yai hap jit han (ie)? 「あなたは彼が誰なのかを知っていますか?」

(Yam) ues meip yai uuc jit (ie). 「(私は)夢が現実だったらいいのに(と思う)。」

節が目的語とならず文全体を修飾する場合は、qut を使う。

(例文)

As yam as qut. 「私がするようにしろ」

Yam xes yam yai qut. 「私はありのままに生きる」

## 形容詞によって修飾される名詞

名詞を修飾する形容詞は前に置く。副詞的利用の形容詞はそのさらに前に置く。

(例)

Meitii zum. 「緑の大地」 <語注> meitii 「緑の」、zum 「大地」

Pyeaii qu sawii ois. 「非常に沢山の魚」 <語注> sawii 「沢山の」、ois 「魚」

## 動詞によって修飾される名詞

形容詞で修飾する場合と同じように名詞の前に置く。

(例)

tas nok. 「走る男」

tas dei. 「走る(ための)場所」 <語注> dei 「場所」

上記のように、「修飾対象が走っている」のか「修飾対象が走られる」のかは文脈で区別することとなる。動詞の活用形で修飾することもできる。

(例)

tasii nok. 「走っている男」

なお、文章なのか名詞句なのかは格標識の有無で区別する。

tas mok. 「走る(ための)山」 / tas mok uo. 「山で走る」

前者は名詞句であり、後者は主語の省略された文章である。

### 文によって修飾される名詞

修飾語句が長くなった場合も含めて、文章で名詞を修飾する場合は所有格標識 eu を修飾文の後に置く。英語でいう関係代名詞に相当する単語だが、修飾先の単語との関係が主格・目的格・所有格のいずれであっても eu のまま変わらない。

(例文)

Qodei uo ias uim ie eu xin yai hap han?

「そこで芋を食べている人は誰ですか?」 <語注> qodei 「そこ」、ias 「食べる」、uim 「芋」、xin 「人」

Yam jissit eu hai paakiisit. 「私が見た花は赤かった」 <語注> hai 「花」、paakii 「赤い」

Taa meitii eu fik yai hap eu fik han?

「屋根が緑の家は誰の家ですか?」 <語注> taa 「屋根」、meitii 「緑の」、fik 「家」

少し複雑だが、以下のように考える。

(S) Taa meitii eu fik / (V) yai / (C) hap eu fik / han?

### 複数の表し方

名詞に複数形はない。数字または複数を表す修飾語句を名詞の前に置く。

(例文)

Yam iassit ie xio ois. 「私は2匹の魚を食べた」 <語注> xio 「2」

※この文章は、個数格標識を用いて、Yam iassit ois ie xio o<sup>^</sup>. 「私は魚を2匹食べた」ということもできる。



## 参考

### 筆記の方向

Hiktan 文字は、漢字・ひらがな・ハングルなどと同じ「四角い文字」なので、縦書きも横書きもどちらもできる。

### 数字の表記

泉星世界においても、地球でいう「アラビア数字」が世界共通で使用されており、Hiktan 語でも使われる。

### Hiktan 語における外来語の表記

Hiktan 語は泉星世界においては孤立した言語であり、本来はラテン文字と対応するものではない。したがって、外来語は耳で聞こえるように転写することが原則である。

城栄語・日本語を借用する場合でも、ローマ字をそのまま転写させるのではなく、音を転写する。

しかし、Hiktan 語に存在しない音を無理に取り入れることはしない。二重子音や三重子音を含んだ外来単語を借用した場合は、子音が削除されたり母音が挿入されたりする。語末の子音が **-g, -z, -j, -d, -l, -v, -b** であるような外来単語を借用した場合は、末子音がそれぞれ **-k, -s, -x, -t, -f, -p** に置き換えられる。なお、Hiktan 語には 1 拍の音節が 3 つ以上並ぶことを嫌う傾向があり、そのために一部の音が削除されたり二重母音化したりする場合がある。

(例)

Joeee 「城栄国」

sukiak 「すき焼き」

城栄語・日本語の音と Hiktan 語の対応関係

城栄語・日本語の音と Hiktan 語は以下のように対応する。

|        | ワ行 | ラ行 | ヤ行 | マ行 | ハ行       | ナ行 | タ行  | サ行  | カ行 | ア行 |    |
|--------|----|----|----|----|----------|----|-----|-----|----|----|----|
| ひらがな   | わ  | ら  | や  | ま  | は        | な  | た   | さ   | か  | あ  | ア段 |
| ローマ字   | wa | ra | ya | ma | ha       | na | ta  | sa  | ka | a  |    |
| Hiktan | wa | la | ya | ma | ha       | na | ta  | sa  | ka | a  |    |
| ひらがな   |    | り  |    | み  | ひ        | に  | ち   | し   | き  | い  | イ段 |
| ローマ字   |    | ri |    | mi | hi       | ni | chi | shi | ki | i  |    |
| Hiktan |    | li |    | mi | (xi, hi) | ni | qi  | xi  | ki | i  |    |
| ひらがな   |    | る  | ゆ  | む  | ふ        | ぬ  | つ   | す   | く  | う  | ウ段 |
| ローマ字   |    | ru | yu | mu | fu       | nu | tsu | su  | ku | u  |    |
| Hiktan |    | lu | yu | mu | fu       | nu | cu  | su  | ku | u  |    |
| ひらがな   |    | れ  |    | め  | へ        | ね  | て   | せ   | け  | え  | エ段 |
| ローマ字   |    | re |    | me | he       | ne | te  | se  | ke | e  |    |
| Hiktan |    | le |    | me | he       | ne | te  | se  | ke | e  |    |
| ひらがな   |    | ろ  | よ  | も  | ほ        | の  | と   | そ   | こ  | お  | オ段 |
| ローマ字   |    | ro | yo | mo | ho       | no | to  | so  | ko | o  |    |
| Hiktan |    | lo | yo | mo | ho       | no | to  | so  | ko | o  |    |

|        | パ行 | バ行 | ダ行 | ザ行 | ガ行非鼻濁音 | ガ行鼻濁音 |    |
|--------|----|----|----|----|--------|-------|----|
| ひらがな   | ぱ  | ば  | だ  | ざ  | が      | が     | ア段 |
| ローマ字   | pa | ba | da | za | ga     | (nga) |    |
| Hiktan | pa | ba | da | za | ga     | ˆa    |    |
| ひらがな   | ぴ  | び  | ぢ  | じ  | ぎ      | ぎ     | イ段 |
| ローマ字   | pi | bi | ji | ji | gi     | (ngi) |    |
| Hiktan | pi | bi | ji | ji | gi     | ˆi    |    |
| ひらがな   | ぷ  | ぶ  | づ  | ず  | ぐ      | ぐ     | ウ段 |
| ローマ字   | pu | bu | zu | zu | gu     | (ngu) |    |
| Hiktan | pu | bu | zu | zu | gu     | ˆu    |    |
| ひらがな   | ぺ  | べ  | で  | ぜ  | げ      | げ     | エ段 |
| ローマ字   | pe | be | de | ze | ge     | (nge) |    |
| Hiktan | pe | be | de | ze | ge     | ˆe    |    |
| ひらがな   | ぽ  | ぼ  | ど  | ぞ  | ご      | ご     | オ段 |
| ローマ字   | po | bo | do | zo | go     | (ngo) |    |
| Hiktan | po | bo | do | zo | go     | ˆo    |    |

|        | リヤ行 | ミヤ行 | ピヤ行 | ビヤ行 | ヒヤ行      | ニヤ行 | チャ行 | ジャ行 | シャ行 | ギヤ行非鼻濁音 | ギヤ行鼻濁音 | キヤ行 |    |
|--------|-----|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-----|---------|--------|-----|----|
| ひらがな   | りゃ  | みゃ  | ぴゃ  | びゃ  | ひゃ       | にゃ  | ちゃ  | じゃ  | しゃ  | ぎゃ      | ぎゃ     | きゃ  | ア段 |
| ローマ字   | rya | mya | pya | bya | hya      | nya | ja  | ja  | xa  | gya     | ˆya    | kya |    |
| Hiktan | lya | mya | pya | bya | (xa,hya) | nya | ja  | ja  | xa  | gya     | ˆya    | kya |    |
| ひらがな   | りゅ  | みゅ  | ぴゅ  | びゅ  | ひゅ       | にゅ  | ちゅ  | じゅ  | しゅ  | ぎゅ      | ぎゅ     | きゅ  | ウ段 |
| ローマ字   | ryu | myu | pyu | byu | hyu      | nyu | ju  | ju  | xu  | gyu     | ˆyu    | kyu |    |
| Hiktan | lyu | myu | pyu | byu | (xu,hyu) | nyu | ju  | ju  | xu  | gyu     | ˆyu    | kyu |    |
| ひらがな   | りょ  | みょ  | ぴょ  | びょ  | ひょ       | にょ  | ちょ  | じょ  | しょ  | ぎょ      | ぎょ     | きょ  | オ段 |
| ローマ字   | ryo | myo | pyo | byo | hyo      | nyo | jo  | jo  | xo  | gyo     | ˆyo    | kyo |    |
| Hiktan | lyo | myo | pyo | byo | (xo,hyo) | nyo | jo  | jo  | xo  | gyo     | ˆyo    | kyo |    |

ほとんどローマ字のままではよいが一部に違いがあるので注意したい。赤字が日本語ローマ字と異なる部分、青字は日本語ローマ字と同じだが注意すべき部分である。

日本語の音を取り入れるときは、ひらがなをそのまま転写するのではなく、「聞こえる音のまま」転写することが原則である。しかし、日本語にあつて Hiktan 語にない音は近似の音で代用する。

## ■長音(一)

Hiktan 語には長音があるので、長音は母音字を単純に2つ重ねればよい。

(例) 大野(おおの) → oono, 新山(にいやま) → niiyama

「オ段+う」は、発音するとおりに表記する。[o:]で発音するなら oo, [ou]で発音するなら ou で表す。

([o:]で発音する場合の例) 佐藤(さとう) → satoo, 中条(ちゅうじょう) → quujoo

([ou]で発音する場合の例) 清浦(きょうら) → kiyoula

「エ段+い」も、発音するとおりに表記する。[e:]で発音するなら ee, [ei]で発音するなら ei で表す。

([e:]で発音する場合の例) 栄倉(えいくら) → eekula

([ei]で発音する場合の例) 武井(たけい) → takei, 寛(かけい) → kakei

## ■促音(っ)

Hiktan 語には「促音」という種類の音はない。日本語の促音は、次に続く音の調音位置で停止する音であるから、次に続く音に応じて考えなければならない。

次に続く音が「カ行」の場合、ローマ字と同じく k を重ねる。

(例) 六甲(ろっこう) → lokkoo, 戸次(べっき) → bekki

次に続く音が「さ」「す」「せ」「そ」(Hiktan 語の s)の場合、s を重ねる。

(例) 日赤(にっせき) → nisseki

次に続く音が「し」「シャ行」(Hiktan 語の x)の場合、x を重ねる。

(例) 別所(べっしょ) → bexxo

次に続く音が「た」「て」「と」(Hiktan 語の t)の場合、ローマ字と同じく t を重ねるだけでよい。

(例) 堀田(ほった) → hotta

次に続く音が「ち」「チャ行」(Hiktan 語の q)の場合は -qq- と -tq- のどちらでもよい。

(例) 備中(びっちゅう) → biqquu または bitquu のどちらでもよい

次に続く音が「つ」(Hiktan 語の c)の場合は -cc- と -tc- のどちらでもよい。

(例) 摂津(せつつ) → seccu または setcu のどちらでもよい

次に続く音が「パ行」の場合、ローマ字と同じく p を重ねるだけでよい。

(例) 別府(べっふ) → beppu, 七宝(しっぽう) → xippoo

## ■撥音(ん)

促音の場合と同じく、次に続く音に応じて考えなければならない。

末尾の場合、^ を用いる。

(例) 能年(のうねん) → noone^, 伴(ばん) → ba^, 喜屋武(きやん) → kya^

次に続く音が「ア行」「ヤ行」「ワ行」の場合、^- を用いる。

(例) 新海(しんうみ) → xi^-umi, 山谷(さんや) → sa^-ya, 三和(さんわ) → sa^-wa

次に続く音が「カ行」「ガ行」「サ行」「シャ行」「ハ行」の場合、^ を用いる。

(例) 新川(しんかわ) → xi^kawa, 新神戸(しんこうべ) → xi^koobe

次に続く音が「ザ行」「ジャ行」「タ行」「チャ行」「ダ行」「ヂャ行」「ナ行」「ニャ行」の場合、n を用いる。

(例) 半沢(はんざわ) → hanzawa, 安藤(あんどう) → andoo, 菅野(かんの) → kanno

次に続く音が「パ行」「ピャ行」「バ行」「ビャ行」「マ行」「ミャ行」の場合、m を用いる。

(例) 満保(まんぼ) → mampo, 群馬(ぐんま) → gumma, 新橋(しんばし) → ximbaxi

(「ん」が2つ以上登場する場合の例)

播但(ばんたん) → banta^, 新安城(しんあんじょう) → xi^-anjoo

ひらがなが同じでも方言の差によって転写の方法が異なるという場合がある。

・ガ行

ガ行の子音は、語頭および「ん」の直後では「g」だが、語中の場合、鼻濁音のある方言で転写すれば「^」、鼻濁音のない方言で転写すれば「r」である。これは Hiktan 語で「^」[ŋ] と「g」[g] と「r」[ɣ] が別の音素であることに起因する。

・「ひ」および「ヒャ行」

「ひ」の音は、関東方言では [çi] の音であるため、最も近い音である「xi」と転写されるが、関西方言では [hi] の音であるため「hi」と転写される。

Hiktan 語の音としては、関東方言の「ひ」と「し」は同じ音として認識されるのである。

上記のような発音差違により、同じ苗字/地名でも、その人がどこの方言を使っているかによって転写方法が違ってくる場合がある。

(例)

篠永(しのなが) → 鼻濁音ある方言では xinona^a, 鼻濁音のない方言では xinonara

日村(ひむら) → 関東方言では ximula, 関西方言では himura

剛力(ごうりき) → gooliki (語頭のガ行は g)

・無声化

日本語において、無声子音に挟まれた i および u は脱落することがある。そのような発音の場合、i や u は脱落した状態で転写する。しかし、脱落を反映するひらがなは「く」「す」「ち」「つ」「ぷ」のみである。なお、無声化のない方言をベースに転写するなら、脱落させない。

(例)

愛知(あいち) [aɪtʃ] → aiq

大津(おおつ) [o:ts] → ooc

## Hiktan 語の発音変化史

### ◆母音

かつては Hiktan 語の母音は 7 つであった。

現在の □ [a], ◇ [e], △ [i], ○ [o], ▽ [u] の 5 つに加えて、[y] (円唇前舌狭母音), [u] (円唇後舌狭母音) の 2 つが存在した。

Hiktan 語で発生した「非円唇音化」によって、[y] と [u] はそれぞれ △ [i], ▽ [u] に合流して消滅した。

「非円唇音化」は現在も続く傾向であり、若者を中心に ○ を [ɤ] (非円唇後舌半狭母音) で発音する人も見られ、将来はこの音に変化していくものと見られる。

### ◆子音

現在よりも多様な子音が存在した。

第 1 種子音として [m̥] (唇歯鼻音)、第 2 種子音として [dʒ] (有声後部歯茎破擦音)、[dz] (有声歯茎破擦音) があつたと考えられる。[m̥] は m [m] に、[dʒ] は j [ɟ] に、[dz] は z [z] にそれぞれ合流し消滅した。